

(1)「東北活性研フォーラム」の開催

(1)-2 先輩から後輩へ。 ～山形で学び、働き、地方創生～

《 事業目的 》

国立大学法人山形大学と、東北創生に向けた地域の産業力向上と地域活性化を目的として連携協力することとし、相互協力に関する覚書を平成27年11月に締結。

東北地域の抱える課題に適切に対応し、地域社会の発展と産業の復興に寄与することを目的として27年度に次いで、28年度もフォーラムを開催した。

《 進め方 》

産業力向上・地域活性化の観点から、国立大学法人山形大学との共催で、東北地域のニーズや時宜に適ったテーマを選定し、有識者や専門家あるいは企業関係者などを講師に招いてフォーラムを開催した。

《 概要報告 》

- ・日 時 平成29年2月11日(土) 13:30～17:30
- ・場 所 山形大学小白川キャンパス
- ・主 催 国立大学法人山形大学
- ・共 催 公益財団法人東北活性化研究センター、株式会社ナツクサ
- ・後 援 山形県、山形県教育委員会、山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、上山市、長井市、西川町、真室川町、戸沢村、飯豊町、三川町、庄内町、遊佐町、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県工業会、山形県銀行協会、山形県信用金庫協会、山形県経営者協会、山形創造NPO支援ネットワーク、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校、東北公益文科大学、東北文教大学、東北文教大学短期大学部、東北芸術工科大学
- ・交流会
参加者：100名

- 山形新聞 掲載(平成29年2月12日)
- 電気新聞 掲載(平成29年2月21日)

東北活性研フォーラム

「先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～」

当センターでは、平成27年11月に山形大学と東北の地方創生に向けた相互協力について覚書を締結し、この年度は山形大学と文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC⁺)」に採択されたキック・オフのフォーラムを当センターと共催し、平成28年2月9日(火)に開催した。

28年度も「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC⁺)」と「地(知)の拠点整備事業(COC)」の地方創生推進事業の取組みを伝えるフォーラムを開催した。

当日は祝日にも関わらず大学生、高校生を含め約100名の参加があった。

開催概要

1. 日 時 平成29年2月11日(土) 13:30～17:30
2. 場 所 山形大学小白川キャンパス
3. 主 催 国立大学法人山形大学
4. 共 催 公益財団法人東北活性化研究センター、株式会社ナツクサ
5. プログラム内容

先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～

◆主催者・来賓挨拶

小山 清人(国立大学法人山形大学長)
細谷 知行 氏(山形県副知事)

◆基調講演「山形と地方創生」

海輪 誠(公益財団法人東北活性化研究センター会長)
安房 毅 氏(山形県工業会会長/株式会社タカハタ電子代表取締役)

◆COC⁺事業の説明

松田 修 氏(山形大学教授)

◆県内就職者による発表「山形で働く」

斉藤 慈 氏(山形航空電子株式会社/山形大学卒業生)
富田 彩友美 氏(山形信用金庫/山形大学卒業生)

◆大学生・高校生による発表「山形で学ぶ」

Agasuke House Project (メンバー)

◆交流会

6. 概要

(1) 主催者挨拶 小山 清人 山形大学学長

山形大学は、COC⁺に参加や協力する大学をはじめ、県や市町村、企業・民間団体と共に、山形県が抱える人口減少や若者の流出などの課題に対して、心を一つにして対応していきたいと考えている。



(小小学長)



(細谷副知事)

(2) 来賓挨拶 細谷 知行 山形県副知事

山形大学は、まさしく地(知)の拠点として、最先端技術などを創出しており感謝している。

昨年の12月には、県内の関係団体や機関が協力して「オールやまがた若者定着推進会議」を発足し、山形で働きたいと思う若者を全力で応援することとしている。



(講演全景)



(松田教授)

(3) COC⁺事業の説明 松田 修 山形大学教授

人口減少が進む中、生まれた地域に生涯住む人は全国平均で約80%、東北地区においては58%、山形県は50%と低い状況である。COC事業は平成25年度から実施し、産業の活性化等を進めている。COC⁺事業については、平成27年度から5大学、15市町村、企業・民間団体が参加し進めている。山形大学では地元就職率を25%の250人から35%の350人へ増加、大学発ベンチャー企業を5件増加、150人の雇用創出を目標としている。



(海輪会長)



(海輪会長)

(4) 基調講演 I 「山形の魅力と、ここで『学び、働く』ということ」

海輪 誠 公益財団法人東北活性化研究センター会長

私は東京の北千住の出身であるが、昔から東北には愛着があった。縁があって東北大学に進学することになったが、東北で過ごした4年間の大学生活をとおして東北の人々のやさしさに惹かれ、そして、東北で暮らそうと考え東北電力(株)に入社した。公益事業の使命である「電気の安定供給」のために尽力してきた。社長就任9ヶ月目に東日本大震災が発生したが、多くの方に支えられて、この危機を乗り越えることができた。

人口減少に歯止めをかけ、若い人の流出を止めることが必要である。そのためには、大学等と連携して、若い方々やその親の意識を変えることが大切であろう。

そして、東北や山形の魅力を再認識する必要がある。今までの都会中心、お金中心といった価値観ではなく、豊かな暮らしのために何が必要かをよく考えることが大切である。

例えば、地元において自分にとって人生を満足させてくれる企業がないかを確認して欲しい。そして、地元を見つめ直し、自分の人生にとって大切なものは何かについても確認して欲しい。是非、山形や東北に戻り、地域を支えながら地元に貢献できる人になっていただきたい。



(株)タカハタ電子安房代表取締役)



(株)タカハタ電子安房代表取締役)

(5) 基調講演 2

安房 毅 山形県工業会会長／株式会社タカハタ電子代表取締役

米沢にある商業高校を卒業後、京都の会社に就職したが、家庭の事情により、地元に戻り、技術会社に就職し、一つ一つ勉強していった。その後、米沢にシャープとのフィルムコンデンサーの合弁会社を立ち上げ新工場を作った。

今でも多くの人々に支えられている。米沢八幡原中核工業団地を拠点として、行政や金融機関も組み入れて、産学官連携を進める団体として2001年に立ち上げられた団体として、「米沢ビジネスネッ

トワークオフィス]等も重要な情報交換の場となっている。会員は、民間企業からなる一般会員(電気機器メーカー、銀行など)、特別会員(労働組合、東北電力など)、行政会員(米沢市と山形県)、高等学校会員(米沢工業高等学校と米沢東高等学校)、賛助会員(医師会、薬剤師会、東京商工会議所など)で構成されている。会員は、バラエティに富んでおり、米沢市の「重層的なネットワーク」となっている。

上山温泉の旅館である古窯の女将であった佐藤幸子さんの言葉で「よき人生とは、よき人との出会いである」ということに共感している。人生の師匠、よき仲間、よき家族を持つことが大切である。

山形は、①フルーツ、米、酒、ワインなど衣食住の全てが充実している、②学ぶ拠点がある、③人情、絆が深い。また、有機ELなど最先端技術がある。

人生は、一歩踏み出す勇気が必要であり、チャレンジして失敗することも大切である。何もしなければ失敗はない。チャレンジしなければ、世間はステージを与えてくれない。パッション(情熱)を持って進むことが大事である。勇気さえあればステージが変わると思う。

(6) 県内就職者による発表Ⅰ

齊藤 慈 山形航空電子株式会社/山形大学卒業生

仙台市の出身であり、大学時代は、マンドリンクラブに在籍していた。今は、携帯電話のコネクタ部品等を製造している新庄市に本社工場がある山形航空電子株式会社総務部で働いている。

就職活動をする際には、自分らしく働くこと、キャリア形成などをPDCAで具体的に考え、地方で働くことを選択した。山形は、製造業が盛ん、過ごしやすい環境、金銭面、メリハリの利いた生活などがある。何よりも、私は山形が好きであるということが山形に就職した理由である。また、初任給等は東京の会社と比べて安いものの、山形は、東京に比べて住居費や生活費等が安いためにトータル的には、それほど遜色はないと考えた。



(齊藤さん)



(富田さん)

(7) 県内就職者による発表Ⅱ

富田 彩友美 山形信用金庫/山形大学卒業生

長年、吹奏楽の演奏活動を行っており、就職活動をする際には、東京への就職も考えたが、地元への愛着、親や地元の人々への恩返しとの思いと地域密着を経営理念とする会社に共感し、地元にある山形信用金庫に就職した。

現在も仕事⇒趣味(吹奏楽)⇒地域活動・ボランティア⇒学習⇒休養と充実した生活を送っている。

また、山形の地酒を愛しており、山形が生んだ酒造好適米「出羽燦々」を使った吟醸酒を晩酌で飲めることも山形に就職して良かったものの一つである。

(8) 「山形で学ぶ」

Agasuke House Project メンバー

高大連携事業による東根の空き家をゲストハウスとして再生させる Agasuke House Project や観光推進事業について、観光標識の充実化や均一運賃観光バスの導入について、山形大生、山形西高校生、山形北高校生がそれぞれ発表した。



(山形大学生)



(山形西高生)



(山形北高生)

(9) 交流会

山形大学による地域活性化事業や国際交流事業をポスター等により紹介し、発表者等との交流を図った。